

令和3年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県央会場

科目 ⑦特に配慮を必要とする子どもの理解

- ◆ この科目を通じて学んだことは、子どもの貧困率が高くなってきているということです。目に見えない貧困が子どもの心の成長に影響するのではないかと思います。恥ずかしさから周囲に自分自身のことが言えないのは心が痛みますので、様々な支援が必要だと思います。また、特に私が理解できたことは児童虐待のことでした。他県のニュースなどで心が痛むことがあります、事実を目を背けず今後も子どもたちを見守っていきたいと思います。
- ◆ 児童相談所の方から直接お話を聞く機会があつてとても良かったです。全国的に見て自分が思っていたよりも虐待相談件数が多くてびっくりしました。実際にはもっと数が多いのではないかとすると、とても胸が痛くなります。毎日50人前後の子どもたちと接していますが、子どもや保護者の変化や小さなサイン等に気付けるようになりたいと思います。コロナ禍で家にこもりがちな状況なので特に注意して見ていきたいです。
- ◆ 児童虐待の相談対応件数が年々増えていて、その中でも心理的虐待の割合が多いということ学んだ。虐待を受けている子どもを見逃さないために、子どもの様子や親の態度をよく見ることを常に意識していきたいと思う。また、子どもの7人に1人が貧困の状況にあり、それが次世代にも連鎖しているということを知った。国の経済的支援はもちろん大事だが、そうした子どもたちの心の支えになることも大切だと感じた。
- ◆ 子どもへの配慮について、見た目で見分ける場合と、一見しただけではすぐに分からない場合があることを改めて学ぶことができました。もし子どもが何かを抱えている場合、信頼関係ができているかどうかで子どもが悩みを話せるかどうか変わってくると思うので、より心に寄り添った関わりをしていきたいと思います。また、日頃より保護者の方とも信頼関係を築けるように、「忙しそうですが体調はいかがですか」など、保護者への声掛けも丁寧にしていくことが大切だと感じました。
- ◆ 県中央児童相談所の講師からは相談援助活動の内容を学んだ。主に児童虐待相談について、虐待の種類や虐待者の割合、一時保護や在宅支援などに加え、放課後児童クラブにおける児童虐待防止対応の重要性を理解した。続いて県地域・家庭福祉課の講師からは、貧困について学んだ。貧困が子どもの学力の低下や虐待につながるケースもあるので、貧困世帯を早期に発見し支援していく必要性を再確認することができた。